

美和ダム再開発湖内堆砂対策施設検討委員会

検討委員会設立の趣意

美和ダムは、天竜川水系の最大支川の三峰川本川に、洪水調節、発電及びかんがいを目的として昭和34年に完成した国土交通省が管理する多目的ダムである。

天竜川上流域では地形が急峻であることに加え、地質が脆弱で大規模な崩壊地が多く、土砂生産が活発であることから、洪水時には出水と共に大量の土砂が流出する。

美和ダム完成直後の昭和34年・36年の出水では約480万 m^3 の土砂が美和ダムに堆積し、その後も昭和47年の洪水では約200万 m^3 、昭和57年・58年の洪水では約600万 m^3 を越える土砂が堆積するなど、出水と共に大量の土砂がダム湖に堆積している。

また、美和ダムの堆砂土は、ウォッシュロードと呼ばれる細粒分が非常に多いことが特徴である。

このため、平成17年に土砂バイパス施設が完成し、現在試験運用中である。

治水事業として新たに実施する三峰川総合開発事業は、美和ダムの洪水調節機能の強化とその維持を目的とした再開発事業であるが、特に洪水調節機能を維持するための堆砂対策は大きな課題となっている。

このことから、美和ダム再開発湖内堆砂対策施設検討委員会において、美和ダムの治水機能を長期的に保全するために設置する湖内堆砂対策施設について、その排砂方法に関する技術的な課題を明らかにするとともに、施工性、操作性、維持管理を含めたトータルコスト縮減の観点から、学識経験者及び、関係者の指導・助言を得るものである。